第 16 章

ポップ音楽オタクになろう！（江口聡）

大学で学ぶということはなにかの専門家になることだ。なにかの専門家になるというのはそれについて多くの知識を得ることだ。なにかについてとても熱心で詳しい人々は「オタク」と呼ばれる。大学の教員はそれぞれ自分の専門分野のオタクである。

だから大学で勉強するには、まずは自分の好きなものについて詳しくなろう。なんでもいいからオタクになろう。そしてそれについて熱く語れるようになろう[*1]。ここではとりあえず音楽オタ（それも「聞き専解釈厨」）になるための第一歩を紹介しよう。

1　音楽と私たち

1.1　あなたはどんな音楽が好き？

あなたは音楽が好きだろうか。自分をそれほどの音楽好き（音楽オタク）だとは思っていなくても、おそらく、好きな曲や好きなアイドル、好きなテレビ番組のオープニング音楽、特別の思い出がある歌があるだろう。友達と遊ぶときにカラオケボックスを使うこともあるだろう。通学時間が長い人はイヤホンをして音楽を聴くことも多いだろう。テスト勉強するときにも音楽を流しているはずだ。音楽という文化はあなたの生活とどうかかわっているだろうか。

また、好きな音楽について語ることは、自己紹介としても最高だ。あなたがどんな音楽が好きかを語ることは、あなたがどんな人かという最高の紹介になる。乃木坂 46 を好きな人たちと椎名林檎が好きな人たちと EXILE が好きな人たちとでは、人のタイプ、つまりライフスタイルや性格や価値観はおそらく違うだろう。

話し合ってみよう

1. 自分が好きな音楽アーティストと曲名を 5〜10 個書き出してみよう。たくさんある場合はそのほんの一部でよい。できるかぎり曲名まで考えた方がよい。現在のあなたの「ベストヒット 10」はどうなるだろうか。
2. そのアーティストや曲のどこがいいか、どんなところが好きか、説明できるだろうか。口頭で 60 秒で説明してみよう。

[*1] 秋本治のマンガ『こちら亀有公園前派出所』第 166 巻に、オタクの「プロ」同士は多くを語らず、「アオいいよね」「いい…」だけで会話が終るという話がある。しかしこれは「プロ」すなわち最高級のオタクの間だからの話であり、オタクはとにかく熱く語りあうものである。Google の画像検索で「こち亀 アオいいよね」で検索してみよう。

1.2　あなたはどんなふうに聞いている？

音楽は私たちの生活と密着している。通学時のスマホや、音楽配信アプリ、Youtube 動画、テレビの音楽番組のように自分から積極的に音楽を聴こうとするときだけでなく、映画やテレビの背景音楽や飲食店やスーパーの BGM など、他の活動をしているときにもはっきりとは意識せずに音楽を聞いている。音楽を聞いていないのは大学教室で授業を受けているときぐらいだろう[*2]。

しかし私たちは本当はどんなふうにどれくらい音楽を聞いているのだろうか？まずは適当に考えてみよう。あなたは今週、何時間音楽を聞いていただろうか。推測してみよう。

しかしそれでは不正確かもしれない。実は人間の記憶や推測というものはあてにならないものだ。もうすこし正確にするには、朝起きてから夜寝るまでの時間くぎりを表にしてみて、今日 1 日実際に自分がどう行動していたのかをできるかぎり正確に思いだして、その時間ごとにどこにいてどんな曲を聞いていたかを書き出してみよう。すると下の表 1 のようなものができる[*3]。これを読みなおしてみよう。最初の推測とどれくらいちがうだろうか？昨日の行動は思い出せるだろうか？

さらに本格的にやるならば、スマホなどの再生記録を活用してみる手もある。少なくとも、1 週間でその装置でどれだけの音楽を聞いたのかはかなり正確に把握できる。あなたは今週何を何時間聞いていただろうか？それは生活の出来事と関係があるだろうか？

表 1　あなたは何をどんなふうに聞いている？

時刻	場所	状況・気分	聞いていたもの
7:00 -	家	いやいや身支度	欅坂 46「サイレントマジョリティー」リピート
8:00 -	電車	満員で死にそう	欅坂 46「月曜の朝、スカートを切られた」リピート
9:00 -	学校	こっそりイヤホン	欅坂 46「エキセントリック」リピート
10:00 -			

1.3　他の人たちはどう聞いている？

私たちは音楽が好きだから聴く。それだけでなく、自分の気分を変えるために聞いたり、友達と交流したりするために使うこともある。自分と音楽のかかわりかたを考えてみよう。そしてさらに他の人はどんなふうに聞いているのかも聞いてみよう。

[*2] 授業中にイヤホンして音楽を聞いてはいけない。

[*3] 簡単な表は Word でも Excell でも自由に作れるようになっておこう。Google Spreadsheet や Google Docs も便利だ。

話しあってみよう

1. あなたは音楽をどのように聞いているだろうか。再生装置はなにを使っていただろうか？一人で？それとも友達と？通学しながら？それとも自分の部屋で？カラオケで？家族とテレビで？ 自分で弾いて？
2. 状況によって聞いている曲はどう違うだろうか？自分の部屋では聴かないが、カラオケでは歌いたい曲があるだろうか？ 必ず一人だけで聴きたい曲や、誰かといっしょに聞きたい曲はあるだろうか？ 説明してみよう。
3. アーティストやアイドルの、コンサートライブや音楽フェスに行ったことがあるだろうか？過去半年、1 年でどれくらい参加しただろうか。紹介してみよう。コンサートではなく、ミュージカル、オペラ、トークショーなどはどうだろうか。録音や DVD ではなく、生の音楽にふれることはどういう体験か話してみよう。

2　製品としての音楽

音楽はアート（芸術作品）であり、個々のアーティストの「魂の叫び！」でもあるが、一方で、営利企業の高度な計算とテクノロジーに支えられた制作と流通システムの産物としての商品であり、また私たちリスナーが「消費」する製品でもある。

音楽を制作し流通させるためにはまず第一に多くの人々に聴かれ売れる必要があり、そのためにさまざまな工夫と戦略が採用されている。

2.1　ジャンル

Spotify や Apple Music のような音楽配信サイトでは、音楽はアーディストだけでなく音楽のタイプである「ジャンル」に分類されていることが多い。「ジャンル」は音楽を分類して入手しやすくするためのものだと考えてよい。

たとえばクラシック、ロック、ポップス、ジャズといったジャンルは非常に広くてぼんやりした分け方だが、売り手であるアーティストと音楽産業にも、買い手であるリスナーにもそれなりの意味がある。ジャンルはなにより、リスナーが新しい音楽を探すときの手掛かりになるのだ。20 世紀後半の CD 店では、大きく、クラシック、ジャズ、洋楽（外国のポップス・ロック）、邦楽（日本のポップス、演歌、民謡）と分類されていた。音楽やアーティストのプロモーションにつかわれる音楽雑誌やネットの音楽サイトも、ジャンルによって分類されている。

市場がずっと広がり、CD 店ではなく音楽配信サイトが中心になった現代でも、新しい音楽を発見するためにはジャンルという手掛かりが必要であり、それが音楽サイトの分類に反映されている。

音楽の「ジャンル分け」には興味深い側面がある。実はそれは音楽業界とリスナーの利益と関心に対応した「恣意的」なものである。たとえば、アメリカ・イギリスの音楽は「ロック」「カントリー」「フォーク」「ヘビーメタル」「ファンク」「R & B」「ブルース」と細かく分類されているのに、フランス、アルゼンチン、セネガル、パキスタンの音楽がすべて「ワールド」とひとくくりにされているかもしれない。どうしてこうなっているのか考えてみよう。

調べてみよう

- 自分が使っている音楽サイトがジャンルをどう分類しているか確認しよう。
- なぜそのような分類になっているか推測して話あってみよう。

2.2　ジャンルとイメージ

細分化された「ジャンル」の機能の一つは、リスナーの「期待」に応じることだ。つまり、リスナーが聴きたい曲を選ぶときの指標となる。たとえばクラシックを好む人は、モーツァルトとベートーベンの音楽も好むなど、同じジャンルの曲を好むことが多い。「ハードバップジャズ」や「パンクロック」なども、そのような役割を果たす。おおざっぱに聞いたときにだいたい同じ印象を与えてくれるような音楽が、まとめられているわけである。またジャンルは、それを演奏するアーティストたちのイメージや、支持するライフスタイルを反映する。

非常におおざっぱに「クラシック音楽」といえば、多くの人は西洋の 18〜20 世紀のヨーロッパ中心の、オーケストラ、ヴァイオリン、ピアノといった西洋の伝統的な楽器を使用した音楽が期待される。クラシック音楽家たちは（たいてい）燕尾服やドレスを着てステージに立ち、礼儀正しくおちついた振る舞いをすると期待される。コンサートでは観客は無言で静かに聴き、拍手どころか咳ばらいまで一定の場所でしか許されない。一般的にクラシック音楽を好む人はそれなりの年齢であったり高学歴であったりする。古典文学や美術などの「ハイカルチャー」とのかかわりが多いことも指摘されることがある。高品質のオーディオ機器を好むのもこの層の人々だ。

「ポップス」はクラシック音楽以外の、さまざまなアレンジによって聴きやすい大衆向け（ポピュラー）音楽を指す。

「ジャズ」は 20 世紀前半からのアメリカ黒人の伝統に根差した器楽中心の音楽で、即興演奏が大部分であることが特徴だ。サックスやドラムセットといったクラシック音楽ではめったに使われない楽器が活躍する。演奏者は過去にはモダンなスーツ姿が「ヒップ」「クール」（かっこいい）とされていた。コンサートホールだけでなく、ライブハウスのような小さな会場でも演奏され、アルコールとの結びつきが強い[*4]。またリスナーの聴き方も違う。曲中であっても演奏がよければ、観客は掛け声や拍手で演奏に反応することが許され、むしろ期待されている。

「ロック」はかなり広い分類だが、基本的には 20 世紀後半のボーカルとエレキギターとドラムを中心にしたバンドによる、英語圏の白人の若者中心の音楽だということになっている。演奏者の衣装は若者の最先端の流行を追うことが多い。むしろロックスターたちがファッションの流行を作る面もある。ロックにはさらに、ロックンロール、ハードロック、プログレ、ヘビーメタルなど細かく細分化されている。たとえば 1970 年代のハードロックであれば、長髪、ティーシャツ、ジーンズや革のパンツなどがトレードマークだ。聴衆の多くは、アメリカでいえば白人の若者ということになるだろう。

ラップ／ヒップホップはサンプリングや打ち込みを利用した比較的遅めで重めのビートが多く、楽器の即興演奏は期待されていない。ラップの歌詞にあたる「リリック」も、抑圧された黒人集団の価値観や人生観に合うように作られており、社会的抑圧やそれに対する怒り、生活でのトラブルを歌うことが多い。ラッパーはティーシャツにズボンに帽子や坊主頭にしたり、ゴテゴテのアクセサリーをつけたりする。一般にヒップホップはアメリカの豊かではない黒人青年たちに向けて作られているとされる。

よく耳にする「J-POP」というジャンルは、日本の最近のポップス、という程度の分類であり、あ

[*4] 過去にはジャズ演奏家とヘロインや覚醒剤などのドラッグとの関係が語られることも多かった。

まりにもぼんやりしているため、役に立つ「ジャンル」とはいえないかもしれない。そのため、「シティポップ」「渋谷系」「青春パンク」「ヴィジュアル系」などさらに細分化されている。

こうした「ジャンル」とそれにまつわるイメージは一定したものではないし、またアーティスト本人がそのように分類されたいと願っているとは限らない。また、現在、ミュージシャンと音楽制作者たちは、世界中の音楽を聴き、そのスタイルを吸収し模倣しあっている。あくまで、音楽を分類し、リスナーがアクセスしやすくするための分類である。

このようにそれぞれのジャンルは、一定のリスナー層をターゲットにして制作されている。マーケティングの世界では、ターゲットとなる人々は、人種、性別、年齢、学歴、収入、ファッションや余暇行動などのライフスタイルなどによって細かく分類され分析されている。音楽は、単なる音ではなく、そうしたライフスタイルに対応した「パッケージング」にもとづいて制作され、私たちもそうしたパッケージングを知らず知らずに楽しみ、影響されているのだ。

現代では音楽ジャンルはさらにもっと細分化され、もはや把握しきれないだろう。大量の音楽を分類し、独自性を示すために、どんどん新しい言葉が作られているからだ。たとえば、Wikipedia の「音楽のジャンル一覧」や「ポピュラー音楽のジャンル一覧」の項目を見るとよい。そして配信サイトなどを使って世界中のヒット曲を聞いてみよう[*5]。それらが何を歌っているかも検索サイトでわかることが多い。

調べてみよう

1. 音楽にはどんなジャンルがあるか、Wikipedia などでざっと見てみよう。だいたいどういうものか理解できているだろうか？ヒップホップ、サンバ、レゲエ、レゲトン、サルサ、バングラなどは聞いたことがあるだろうか？
2.「ロック」や「ポップス」は特に細分化されている。どんなふうに分類されているだろうか？歴史をたどってみるとよい。
3. あなたが好きなアーティストや楽曲は、どういうジャンルに分類されるだろうか？「邦楽」「邦ロック」「J-POP」というジャンルは広すぎるだろう。他の呼び名はないだろうか？ Wikipedia や広告（プロモーション）ではどう紹介されているか？
4. そのアーティストはどんな服装だろうか？どんな発言をする人々だろうか？どんな世界観をもった人々だろう？
5. そのアーティストのファンたちはどんな服装、どんなライフスタイルだと思われるだろうか？コンサート会場に行くとどんな人たちがどんな割合だろう？
6. あなたは、人々をどんなふうに分類しているだろうか？性別と年齢は基本的なものでどんな社会調査でも使われる。音楽を売るときに、学歴や収入、職業、家族構成、人種、出身地、政治思想、宗教などはどのていど重要だろうか？性格の外向性／内向性（おおざっぱには社交的／非社交的）などはどのていど関係があるだろうか。
7. あるジャンルやアーティストを好きな人々はどんな印象か話しあってみよう。
8. アイドルのイメージと楽曲はどう関係しているだろうか？アイドルやアイドルグループを分類できるだろうか？どのように分類するとよいだろうか。
9.「京女生が聴きそうな音楽」「大学教員が聴きそうな音楽」はあるだろうか？「あの子は／あの先生はああいうのを聞いてそうだ」という予想はどのていど当たるだろうか？

[*5] Apple Music には 100 カ国近い国・地域の現在のヒット曲リストがありとてもおもしろい。

2.3　音楽産業

ここでは詳しく説明することができないが、CD、配信、放送、ライブ、BGM、教育等を含めた音楽産業は巨大産業であり、マーケティングや社会科学研究の主要な対象の一つになっている。統計を見ると、産業がどのような規模であるか、また 20 世紀〜21 世紀に私たちの音楽の聴き方がどのように変化しているか理解することができる。次のような資料を調べてみよう。

- 南田勝也、木島由晶、永井純一、小川博司（編）(2019)『音楽化社会の現在：統計データで読むポピュラー音楽』、新曜社
- 日本の音楽産業のおおまかな姿は、日本レコード協会の「日本のレコード産業 2019」から知ることができる。https://www.riaj.or.jp/f/pdf/issue/industry/RIAJ2019.pdf
- 世界規模での統計もオンラインで各種入手できる。日本の音楽市場は規模は、米国につぐ世界 2 位である。 とりあえず世界のレコード会社関係の NPO、IFPI（国際レコード・ビデオ製作者連盟）の統計を見るとよいだろう。https://www.ifpi.org/global-statistics.php

3　ポップ音楽を分析し解釈する

音楽の楽しみは、アーティストの楽曲とパフォーマンスそのものだ。十分に楽曲とパフォーマンスを楽しめるようになりたいものである。自分が好きなポップ音楽をもっとよく分析して、その魅力をはっきり理解しよう。音楽の分析にはさまざまな手法があるのだが、ここではまず歌詞を中心にして考えてみよう。

クラシック音楽やジャズと比較したとき、ポップ楽曲の特徴はほぼ必ず歌詞をともなっていることであり、またその歌詞はなんらかの「メッセージ」を含んでいるとされる。それを抽出してみよう。あなたの好きな歌はどんなことを歌っているだろうか。たとえば第 15 章で正木先生があげている欅坂 46 の「エキセントリック」を聞いて、次の問いに答えてみよう

> この曲はどういう思いを歌った曲なのでしょうか？またこの曲を聴いて、この歌詞を読んで、みなさんはどう思いますか？

ここで「思い」と呼ばれているのが曲のメッセージだ。「エキセントリック」から聴きとる「思い」「メッセージ」は人によってさまざまだろう。ただそれを実際に話しあってみようとすると、なかなか言葉にできないという難しさを感じるだろう。

そもそも私たちは歌詞や楽曲を十分理解し、音楽を十分理解できているだろうか。ここで、あなたが歌詞を読み解釈し理解する技術が必要だ。そこで次のようなことをそれぞれチェックしてみよう。★のついた項目は音楽の知識がないと難しいかもしれないので飛ばしてよい。

こういったことを理解するためには、なによりも**集中して何度も聴く**のが重要である。好きな曲をリピートして何度も聞こう。今回はボーカル、次はドラムだけ、次はベースだけ、次は弦楽器、というように、注意する楽器を変えながら聞くのもよい。最低 100 回から 200 回は聞きたいものだ[*6]。名

[*6] 同じ曲を何度も聴くということの重要性については、作曲家・アレンジャーの富田恵一の『ナイトフライ：録音芸術の作法と鑑賞法』（DU BOOKS、2014）を読むとよい。彼はたくさんの曲を聴くよりも、1 曲を何度も聴く方が、音楽を深く味わい理解することができるようになると主張している。

曲は何回聞いても新しい発見があるものだ[*7]。カラオケでも練習がてら、同じ曲をくりかえし歌ってみよう。

3.1　楽曲の基本情報

アーティスト名、曲名、発表年　これが最も基本的な情報である。ポップ音楽は、そのころの世相や流行、社会の雰囲気、社会的な出来事を反映していることがある。その曲が発表されたころはどんな時代だったろうか。

作詞者・作曲者・編曲者名　音楽作品はしばしば手分けして制作されている。作詞者・作曲者・編曲者、実演者（パフォーマー）がそれぞれ異なることは珍しくない。さらには全体を企画し指示するプロデューサー、録音技術者、マスタリング（仕上げ）技術者など多くの人がかかわっている。その曲にかかわっている人々はどのような人だろうか。彼らは他にどのような作品を作っているだろうか。彼らは何を狙って、何を訴えようとしているだろうか。

ジャンル　先にも述べたように、「ジャンル」は購買対象のリスナーとのかかわりのなかで重要である。 その曲はどんなジャンルに分けられるだろうか。似た曲にはどんなものがあるだろう。

リズムパターン★　ポップ音楽は一定のリズムの型にしたがって作られていることが多い。 8 ビート、16 ビート、4 ビート、ファンク、カントリー、レゲエ、サルサ、レゲトン、サンバ、ボサノバ、タンゴなど、それぞれのリズムは、世界各地それぞれのジャンルに合わせた世界観を運んでくる。

テンポ　テンポは BPM (Beats Per Minuite、1 分間あたりの拍数) という単位で表わされるのが一般的である。ストップウォッチで 30 秒ほど数えて 2 倍すればよい。専用のスマホアプリもある。自分がゆったり、あるいは急いで歩く速度を測定してみると基準になる。誰も見ていないところで音楽に合わせて体を揺らし、踊ってみよう。一般にテンポが速い曲は活発で元気がよく、遅い曲はゆったりしていて沈んでいるとされるが、テンポはもっと微妙なものであり、また一曲の中で変わることもある。

3.2　商品として考える

次は、商品としてどんな対象に向けて作られているかを考えてみよう。

アーティスト情報　その曲を歌い演奏しているのはどんな誰だろうか。性別、年代、印象、服装、ライフスタイルなどを考えよう。そのアーティストは、過去にはどんな作品を作っているだろうか、リスナーにどんなメッセージを送ろうとしていると想定されるだろうか。

想定されているリスナー、ファン層　どんな人がその曲を聴くだろうか。典型的な性別、年代、印象、服装、ライフスタイルをいくつかあげてみよう。その曲はその対象のリスナーたちが共感しやすいように作られているはずだと考えてよい。

プロモーション　そのアーティストは、どのようなイメージで売られているだろうか。なぜそうしたプロモーションをしているだろうか。「ミュージックステーション」や「歌謡祭」に出演するだろうか。他にどのようなテレビ番組に出ているだろうか。ラジオのパーソナリティをつとめたりして、どんな人柄かわかるだろうか。雑誌にはどのように登場し、どのようにインタビューに応じているだろうか。音楽番組以外、たとえばお笑い番組やバラエティでも活躍しているだ

[*7] 18 才の時に何度も聞いた曲を 50 才になって聞いたときにも発見がある。古典文学や名画でも同様である。

ろうか。ライブ活動ではどんな感じだろうか。

3.3　歌詞のストーリーとメッセージ

さて、ポップ音楽の歌詞を現代文や詩を読むように読んでみよう。気をつけるべきところは次のような点だ。

語り手のアイデンティティ　語り手の性別、年齢、性格、服装、ライフスタイル、世界観などを推測してみよう。何を手がかりに推測すればよいだろうか？

語りかけられている聞き手のアイデンティティ　多くの歌は誰かに語りかける形になっている。どんな相手に語りかけてるだろうか？語り手と同じように推測してみよう。あるいは、自分自身に語りかけているだろうか。

物語の主人公　主人公は誰だろうか？誰についてもっとも多くのことが語られているだろうか？ ふつうは一人称の語り手が主人公だが、語り手と主人公が別で、3 人称でストーリーが展開する場合がある。

語り手と聞き手の関係　二人（あるいはもっと多く）はどんな関係だろうか。友人？ 恋人？ 別れたあと？

語り手の状況　語り手はいまどんな境遇にあるだろうか。

聞き手の状況　聞き手についても推測しよう。

いつのことについて語られているか　語られている場面を特定できるだろうか。たとえば夏の海岸での出会い、のように。

語っている場面　語っている場面を特定できるだろうか。語り手が語っている場面と、語っている場面が異なっている場合がある。たとえば過去に出会ったときのことを別れ際に語っている、など。特定できるだろうか。

ストーリー　一瞬の場面を語っていることもあれば、数ヶ月、数年のことを語っていることもある。ストーリーが展開しているだろうか？

語り手から聞き手へのメッセージ　語り手は聞き手にはっきり伝えようとしていることはあるだろうか。聞き手になにをしてほしいと思っているだろうか。もしあれば、一言で言い直してみよう。また、表のメッセージと裏のメッセージがちがうということがあるだろうか。

3.4　もっと深読みし、歌詞とサウンドを総合的に鑑賞しよう

ひっかかりのある表現　歌詞に聞きなれない珍しい表現、気になる表現、ひっかかる表現はないだろうか。サウンドが奇妙なところはないだろうか。なぜそこにひっかかるのだろうか。作家はなぜそうした表現をするのだろうか。

他の作品との関係、引用★　ポップ音楽の歌詞は、過去の音楽作品、文学、映画、時代の社会的事象、流行などをほのめかしていることがある。なにか引用や参照はおこなわれていないだろうか。

比喩表現　詩の世界では比喩はとても重要だ。どんな比喩が使われているだろう？それはどんな効果があるだろう。

ダブルミーニング　歌詞には表面的な意味とは別の意味が含まれている。特にポップ音楽では性的な

含みが好まれる傾向がある。探してみよう[*8]。

言葉遊び　地口（洒落）や高校古典で習った伊勢物語の「かきつばた」のような言葉遊びが含まれていうことがある。探してみよう[*9]。

修辞技法★　比喩、ダブルミーニング、言葉遊び以外にも、歌詞には各種のレトリック（修辞）の技術が使われる。高校の古文や漢文では繰り返し・対句・枕詞・序詞・掛詞・縁語・本歌取りなどを学んだはずだ。他にも様々な修辞が使われる。瀬戸賢一『日本語のレトリック：文章表現の技法』（岩波書店、2002）などを読んでみて、どういう技法が使われているか考えてみよう。

フック　その楽曲の特に魅力的なところ（フック）を探そう。それは歌詞やストーリーとどうかかわっているだろうか？

ボーカルスタイル　ボーカルがどんな風に歌っているかはとても重要だ。その声の感じから感情が聴きとれるだろうか？うっとりしている、悲しんでいる、いらいらしている、などが感じられるだろうか？ 特に素敵な個所や気になる個所はあるだろうか？カラオケが好きな人はいろいろ気づくはずだ。叫び（シャウト）、うなりごえ、掛け声、ためいき、吐息、コール&レスポンスなどはどう使われているだろうか。ボーカルの声の感じは曲に合っているだろうか？あなたには声だけで魅力的に感じるアーティストはいるだろうか[*10]。

楽器編成★　どんな楽器が使われているか数えられるだろうか。全部わからなくとも、印象に残る楽器を挙げてみよう。ドラムとベースは特に重要なのでどんな音色が使われているか注意して聞いてみよう。その編成はどんな感じを与えるだろうか。

楽曲の構造★　音楽にはくりかえしやリズム・メロディー・サウンドの対比などの構造がある。歌詞とどう関係しているだろうか？

メロディー・アレンジ・歌詞★　上で解釈した歌詞のストーリーやメッセージは、メロディーやアレンジとうまく合ってるだろうか？どんなふうに合ってるだろうか？ 曲のもりあがり（サビ）と歌詞はどんな関係だろうか？ 前奏や間奏、エンディングにも注意しよう。 もし歌詞と音楽それほど合ってないように感じられる場合には、それはどういうことだろう？

3.5　鑑賞の具体例

下は筆者の江口自身が欅坂 46 の「エキセトリック」を聞きながら気づいた点のメモである。ごくごく主観的なものだが、参考になることがあるかもしれない。

- かなり速めの四つ打ちダンスチューン。130BPM。ドラムは古いタイプのハウス風打ち込み。
- 前奏の澄んだピアノが印象的。シングル CD とアルバム CD でミックス（楽器の音量の調整など）が少し違うようだ。
- 最初のラップ風のセクション（A セクション）は抑揚がなく、抑圧されている感じがある。
- 「あいつがああだって言ってた」からしばらく、ステレオの左右あちこちから声が聴こえる。教室のあちこちでまわりの生徒が会話している感じ。

[*8] 有名なものはいろいろあるのだがここでは紹介できない。

[*9] たとえば相対性理論というバンドの曲には言葉遊びが多い。「チャイナアドバイス」などを聞こう。

[*10] 私にはそうしたシンガーがいるが秘密である。

- 「もうそういうのうんざりなんだよ」のところはマイク録音の感じが変えらえていて、非常に近距離、目の前で語られている感覚がありドキっとする。あるいは自分自身の語りに聞こえる。
- ラップの次のセクション（B セクション）はメロディーとハーモニーに動きがあり、A セクションの抑圧から解放された感じが快感を与えてくれる。一般に抑揚のないメロディーは元気のなさ、落ち込みを、大きな抑揚は感情の高まりを連想させる。
- ほぼ女声だけで歌われる AKB48 シリーズや乃木坂 46 とちがい、欅坂 46 はしばしば男性コーラスが入ることがある。この曲でも効果的。
- ストリングス（弦楽器群）のバックが美しく緊張感がある。
- エキセントリック eccentric はもちろん「変わり者」だが、単に「奇妙だ」「違ってる」という意味で「変わってる」だけではない。語源は「外で／外へ」の ex と中心の centre である。つまり、中心部分からはずれていて、さらに外へ向かおうとしている。はみだすといった含みがある。
- サビ（くりかえされる聞かせどころ）の「アイ・アム・エクセントリッ／かーわりものでいい」がとても印象的。eccentric を、—エ—キ—セン—ト—リッ—ク—とカタカナ語として 5〜7 音節で発音するのではなく、ec-cen-tric と正しく 3 音節で発音している。この語り手はおそらく英語が得意だ。さらに I *AM* eccentric とふつは軽く発音される “am” を強調している。「ああ、たしかに僕は変わり者だよ」という感じ。エキセントリックの最後の「ク」がほとんど発音されず、「エクセントリック」が言い終わらないままに「変わり者」の「カ」に接続している。英語っぽい。意外で印象に残り、何度聞いても歌っても気になる。「アイ—アム—エク—セン—トリッ」までは拍子通りであるのに、この「変わり者でいい」のフレーズは拍より先に発音されて（シンコペーション）、勢いがある。「仲間はずれにされてもかまわん！」という迫力を感じる。
- 2 コーラス目は A のラップのパートも 1 コーラス目よりかっこよくなっている（バックはオルガンと「ウー！」コーラスにかわっている）。特に「信じる？／信じない？／無責任な友達！（ゴッコ！）」のところがかっこいい。日本のラップ系統のこのタイプの合いの手はポジティブで楽しい感じになるものだが、ここではいらだちがこめられている。語り手には友達「ゴッコ！」でしかないのだ。
- 「すべてがフィクション、妄想だって／大人げないイノセンス」のところは解釈が必要だ。「すべては幻想なんだよ、その人の立場しだいだ、「本当の」ものなんか存在しない」という立場は、1980〜90 年代に流行った思想だが、語り手がこれに賛同しているのか、あるいは批判しようとしている対象たちだろうか。「あいつらは大人のくせにそんな幼稚なことを言うのだ」と解釈してよいかどうか。次の「嘘と欺瞞に溢れる世界」が、「すべてはフィクションだ」という主張が「嘘と疑問」だということを意味しているのかどうか。
- 「きれいな川には魚はいないというけど」はことわざ「水清ければ魚（うお）棲まず」の引用。出典は「孔子家語」とも「漢書宋名臣言行録」ともされているようだ。また、高校の漢文で学習した屈原の「漁夫（ぎょほ）辞」を強く連想する。ネットには解説が多いので確認しよう。「僕は泳ぎたくない」というのは語り手は自分を魚と見たてているのかもしれない。
- 1 コーラス目の「心閉ざして交わらないんだ」は、他人についてそう表現するのはともかく、自分について言うには違和感がある。ただし、後のコーラスで水と魚に触れているの

を聞けば（あるいは何度も聞けば）、「水魚の交わり」という故事成語を連想させられる。出典は「三国志」での劉備と諸葛孔明の関係のようだ。そうした信頼できる親密な友達はもたないと宣言しているわけだ。この語り手は漢文にも詳しい。

- 「カメレオン」は比喩（直喩）。単に環境によって色を変えるというだけでなく、あの姿を連想することが期待されているだろう。自分はきれいな魚で他人は醜いカメレオンか。
- 「理解されない方がよっぽど楽だと思ったんだ」「愛なんて縁を切る」は少しこどもっぽいか。そもそも「愛と縁を切る」は奇妙だ。縁を切るのは他人。そして、すでに関係がなければ縁は切れない。誰か語り手とそういう関係になっていた人がいるのだろうか。
- 「冗談じゃない／興味もない／合わせたくない」とないないづくし。この曲は全体に否定文が多いが、このブリッジ（つなぎの部分）でさらに大量の否定文をつめこんでいる。それでは語り手は積極的にはなにをしたいのか……
- 「みんなこそ変りものだぁ」はいかにも子供っぽく情けない。「みんな」が変わっているということはないだろう。バックも混乱している感じ。
- 「はみ出してしまおう／自由なんてそんなもの」。世界に対してポジティブな態度をとる人は、「他人と違うように生きることこそ自由だ！」「本当の自由とはそういうものだ」という形で表現するだろうが、「自由なんてそんなもの（にすぎない）」という徹底的に否定的に語られる。
- 4:00 からのエンディングのピアノもすばらしい。言うべきことを言い切る感じで盛り上ったあと、前奏と同じフレーズに戻る。私は清い川をピチピチと泳ぐ魚を連想する。語り手は屈原のように自分をあくまで清く保とうとしているのかもしれない。語り手の将来はどうなるのだろうか……となると、シングル盤で楽曲の前と後ろにつけられている雑踏 (?) の効果音が気になる。

この曲は、現代の高度化したアイドル曲のなかでも特に計算しつくされ手間暇かけて作られたと思われるものなので、もっとさまざまな工夫を見つけることができるはずだ。三人寄れば文殊の知恵というように、そうした発見は複数の人での話し合いの方が出やすい。他にも素敵な曲はたくさんある。自分たちの好きな曲を分析して味わって語りあってみよう。

もう一度紹介してみよう

上のような課題を意識して気づいたことを書き出して上で、もう一度、あなたの好きな曲を紹介してみよう。今度はみんなに 1 曲を通して聞いてもらい、あなたが「ぐっと来る」ところを中心に、あなたのその曲に対する想いを語ってみよう。最初の課題からどのように進歩しただろうか。また 800 字や 2000 字の熱い紹介文を書いてみよう。それができれば、もうあなたは音楽オタクの仲間入りができたことになる。オタク世界へようこそ。ウェルカムトゥーザオタクワールド！

おわりに

椎名林檎は「人生は夢だらけ」という曲のなかで、「こんな時代じゃあ手間暇掛けよが／掛けなかろうが／終(しま)いには一緒くた／（でも）きっと違いの分かる人は居ます／そう信じて丁寧に拵(こさ)えて居ま

しょう」と歌っている。期待にこたえて、違いの分かるオタクになろう！そしていずれは手間暇かけた卒論を書き、手間暇かけてものを作り、手間暇かけて社会を少しずつ改善できる人になろう。

参考文献

歌詞がどのように作られているかは、「歌詞」の作り方のような本を読んでみるとよい。さらに興味のある人は以下のようなものを読んでみるとよいだろう。

阿久悠 (2009)『作詞入門：阿久式ヒット・ソングの技法』、岩波書店。昭和から平成にかけてのトップ作詞者による作詞解説。

石原千秋 (2005)『J-POP の作詞術』、日本放送出版協会。日本文学研究者が国語教育的な発想から歌詞を読み解くもの。

スージー鈴木 (2019)『80 年代音楽解体新書』、彩流社。音楽ライターによる斬新な歌謡曲・ポップ音楽解説。

戸谷洋志 (2016)『J ポップで考える哲学：自分を問い直すための 15 曲』、講談社。哲学研究者による歌詞解説。

難波江和英 (2004)『恋する J ポップ：平成における恋愛のディスクール』、冬弓舎。英文学者が恋愛をキーに歌詞を読み解いたもの。

細馬宏通 (2014)『うたのしくみ』、ぴあ。ミュージシャンでもある人間行動学者による歌詞と楽曲の関係についての解説

実はこの文書は、音楽というよりはもうすこし広く、メディアとそのコンテンツを批判的に分析し鑑賞することを目指したものの一部である。そうしたメディアリテラシーについては、下のものから大きなヒントを得ている。

カナダオンタリオ州教育省 (1992)『メディア・リテラシー：マスメディアを読み解く』、リベルタ出版。

鈴木みどり (2013)『最新 Study Guid メディア・リテラシー入門』、リベルタ出版。

Pernisco, Nick (2015) *Practical Media Literacy: An Essential Guide to the Critical Thinking Skills for our Digital World*, Understand Media.